

戦争では何も解決しない

いかなる理由があろうとも他国への 軍隊派遣は認められない！

ロシアのプーチン大統領は2月24日、テレビで演説し、ウクライナ東部での「特別な軍事作戦」の実施を決め、侵攻しました。また、ウクライナの各地で爆発音が聞こえ攻撃を受けています。昨年からは、ベラルーシ、ロシア西部、クリミア半島に軍隊を派遣し、演習を繰り返してきました。そして、ロシアは2月21日、ウクライナ東部のドネツク州、ルガンスク州の2州の実効支配する地域の独立承認を一方的に宣言しました。この2州はロシア系住民が多く住みロシアとの関わりも強い地域です。この背景にはウクライナのNATO加盟問題があります。ロシアがウクライナのNATO加盟を拒む理由はかつては旧ソ連を形成し、ロシア人も住む国から、長い国境を接して武器を向けられることになるとしています。このことからウクライナという緩衝国が必要でした。しかし、2014年、ウクライナで親露派政権が



ウクライナ
ゼレンスキー大統領



ロシア
プーチン大統領

崩壊し親欧米派政権が誕生しました。この時、ロシアはクリミア半島に侵攻し併合しました。また、クリミア半島にはロシア系住民がいるためロシアの主張は「救済」と言っています。そして、この紛争の停戦合意がミンスク合意です。ドイツとフランスが仲介役となり13項目から構成されロシアの意向が強く反映された項目もありました。とりわけ、ドネツク州、ルガンスク州の2州に「特別な地位」が与えられたことです。この「特別な地位」などの合意内容にウクライナ国内では不満が出ていました。停戦後も断続的に戦闘が続きました。そして、アメリカをはじめとする各国はロシアの動きに対して経済制裁を科しています。かつての兄弟国と言われたウクライナとロシアは戦争という解決ではなく対話による解決を望み各国においてもたゆまぬ仲裁を渴望します。また、ウクライナは小麦粉の産地として、ロシアは天然ガスなどの産出国として戦争が深刻な状態になれば私たちの生活にも影を落としかねません。

ロシアの軍事侵攻に抗議する！

高崎地本はロシアのウクライナへの軍事侵攻に可能な限り強い言葉で抗議する。歴史を紐解けば戦争において2国間および多国間で解決したためしはない。被害者になるのは弱い立場にある女性や子供たちだ。第2次世界対戦において、日本の無条件降伏後、満州や樺太、国後島などの北方4島ではソ連軍の侵攻によって多くの日本人が犠牲になり、住民の強制退去が行われ、財産の持ち出しが許されず着の身着のまま故郷を去らなければならなかった。この悲劇と相違ないことをロシアはウクライナの地でクリミア半島に引き続きウクライナの各地でも行っている。また、アメリカをはじめとするNATO加盟国もロシアへの緊張を高めるべきではない。どの大国も第2次世界大戦以降、都市を焼失する戦争を行っていない、これは冷戦時代でもあっても対話を通じて戦争への道を避けてきたからではないだろうか。しかし、その陰でベトナム戦争や朝鮮戦争など冷戦大国の代理戦争が行われたのも事実である。また、紛争の絶えない地域もいまだにあるのも事実である。私たちは、加害国であり、被害国であるからこそ、戦争という愚かな解決方法に頼ることなく対話という方法で戦争を強いリーダーシップで解決しなければならない。そして、子供たちを戦場に送ってはならない！